

令和7年度 第2回部活動地域移行検討委員会
会議録

日時： 令和8年2月12日（木）午後7時～8時10分

場所： 結とぴあ 201・202号室

第2回大野市部活動地域移行検討委員会 次第

と き 令和8年2月12日(木) 19時～
ところ 結とぴあ201・202号室

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 協議事項
 - (1) 各団体の活動状況について
新たに生じた課題や困った事例（あれば簡単に発表）
 - (2) 令和8年度からの休日・放課後活動地域展開について（資料1）
 - (3) 休日部活動の地域移行についてのアンケート結果（資料2）
- 4 その他
 - ・トラブル時のフロー図について（資料3）
 - ・部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドラインについて
(資料4)
- 5 閉会挨拶

【出席者】

大野市サッカー協会	明石 和典
大野市軟式野球連盟	林 順和
A x i s 大野ジュニアバスケットボールクラブ	野尻 秀郷 (代理：栃木 孝典)
上庄T i t a n s	帰山 幸大 (代理：形部 香子)
ピクルス	大畑 光博
S h i n y C r e w	南部 幸治
大野市卓球協会	高村 光昭
大野ジュニアBC	中山 幹雄
大野市ソフトテニス協会	仲井 太
大野市陸上競技協会	坂本 美智世
大野ジュニア吹奏楽団	村口 正幸
大野市小中学校長会	山田 善信
大野市PTA連合会	葭安 啓貴
大野市スポーツ協会	朝日 正幸
大野市文化協会	羽根田 繁紀

【事務局】

教育総務課 課長	土蔵 郁代
教育総務課 学校教育審議監	山川 龍一
教育総務課 企画主査	富士根 麻裕
教育総務課 総括コーディネーター	勝矢 和弘
教育総務課 主査	辻 綾子
スポーツ推進課 課長	砂子 淳一
スポーツ推進課 主事	末永 大和
地域文化課 課長	五十川 秀育
地域文化課 課長補佐	表 早苗

【開会】

【教育理念唱和】

【教育長挨拶】

【委員自己紹介】

【委員長挨拶】

【委員長】この検討委員会は令和5年度から3年間経ち、本年度が最終年度である。当初は、サッカー・野球・バスケットボールといったすでに地域移行されていた競技からスタートした。地域クラブの皆様が中学生の休日の活動を支援してくださったことで、現在は11競技14地域クラブの支えのもと、中学生の休日の活動が盛んに行われている。

先ほど教育長からも話があったとおり、令和8年度からは制度の変更が示されており、これらは皆様のご理解とご協力がなければ進められない内容である。今後とも皆様のご理解をいただきながら進めていければ大変ありがたいと考えている。

【議事】

【委員長】協議事項（1）「各団体の活動状況について」、前回5月の会議から数ヶ月が経ったので、それぞれの活動での問題点や今後の課題などについて、積極的にご発言いただきたい。

【大野市陸上競技協会】新たに生じた課題は特にないが、現在抱えている次の課題として、来年からふれあい公園陸上競技場が工事に入るという点がある。私たち結アスリートクラブとしては、陸上スパイクを履いての練習は競技場でしか実施できない。そのため、大野市内ではスパイクを使用した練習ができなくなる見通しであり、他市町の競技場へ行く以外に方法がない。

【委員長】具体的にはどのようなフォローが必要か？

【大野市陸上競技協会】スクールバスがあるため、ぜひ練習場所への移動にスクールバスを使用させていただきたいと考えている。また、市町が変わると競技場の使用料が非常に高くなるため、可能であれば補助金等を活用して支援していただけるとありがたいと思っている。その点についても、引き続きよろしくお願ひしたい。

【大野市軟式野球連盟】春から最も大きく状況が変わったのは、恐らくうちではないかと思う。夏に3年生が抜け、2年生・1年生には野球部に所属している子はいるものの、クラブに入っている子が非常に少なく、その結果、野球チームが存続できない状況が発生している。しかし、2年生の中にはあと1年野球をやりたいという子もいるため、現在は勝山で活動している勝山クラブに子どもたちが参加し、試合を行えるように一緒に活動している、という状態である。しかし大野クラブには登録しているので、勝山クラブの活動がないときには、こちらで指導者を配置して練習するという形を取っている。

今もっとも懸念しているのは子どもたちの移手段の確保である。また、現在1年生で中学校から野球を始めた子が1人いるが、その子は今の2年生が夏に抜けた後、自分はどうなるのかという不安を強く感じている。

野球には硬式野球もあるが、中学校から野球を始めたいという子の受け皿として軟式野球が存在しており、そのため部活動も残してきた経緯がある。この点が、地域移行から地域展開へと制度が変わる中で、どのように影響するのか懸念している。さらに、現在は部活動には入っているがクラブには入っていないという子どもたちに対し、地域展開の話を持ち出したときに、「それなら部活をやめる」ということにならないかどうかも気になっている。

【Shiny Crew】上庄中学校の体育館が使用できなくなるという話が出ているが、その際に問題となるのは、体育館の利用がどうしても他の団体と取り合いになること。地域移行しているのであれば、本来は部活動として使用していた学校区域内の体育館が、優先されるべきではないかと感じている。部活動であれば、徒歩圏内の移動できる範囲で活動するという形になる。しかし一般の方々と利用時間が重なってしまうと、大人は車で移動できるにもかかわらず、昔からその場所を使っていた利用者が優先される。地域移行を目指しているにもかかわらず、中学生が徒歩圏内の体育館を利用できないので、もう少しうまく調整できないものかと思っている。体育館利用については、改めて検討してほしいところである。

【委員長】先ほどふれあい公園陸上競技場が2年間、実質1年半ほど使用できないと話があったが、サッカーは大会等をどうするのか。

【大野市サッカー協会】基本的に、大会や試合のときだけ競技場を使用するという取り決めになっており、練習では使用していないため、利用回数は非常に限られている。真名川グラウンドをうまく活用していく形になると考えている。また、サッカー専用の人工芝のグラウンドを整備してもらえるとありがたい。

【委員長】事務局から回答できることはないか。

【事務局（教育総務課）】ふれあい公園陸上競技場の使用について、県が工事をすると聞いているため、私ども大野市ではどうしても対応できない。ただし、代替施設の確保や、そこでの練習環境づくりといった点については、個別にご相談いただければ、対応できる範囲で協力できるのではないかと思っている。この点は野球に関しても同様であり、こちらも個別の問題として、改めて話をさせていただきたいと考えている。

【事務局（スポーツ推進課）】体育館のことだが、確かに利用する団体が多く、時間帯が重なってしまう部分があるということは認識している。地域移行しているからその場所でなければ都合が悪いというご意見だが、地域移行されたということは、市内全域から選手を集めるということではないか。ということは、例えばその場所に限らなくても、どの場所でもいいということではないだろうか。基本的には例えば学校の近くの子たちが、中心となって体育館を使用するということになると思うが、違う学校の子もその体育館に集まってくるのではないか。

【Shiny Crew】中学校が2つなので、どちらかの中学校に近い体育館で活動するのならわかるが、一番遠い上庄中学校や尚徳中学校の体育館を使うというのは違うのではないかと思う。市内全域から集まる子どもたちではあるが、今中学校は2つしかないので、開成か陽明の近くが通いやすく活動しやすいのではないか。

【事務局（スポーツ推進課）】現状では、皆さんに体育館を共用して使っていただくしかない状況である。このように利用希望が多い状態になると、今あるルールをより厳密に運用していかなければならない状況になってしまうのではないかと、というのが私個人の考えである。そうになると他市のように、例えば抽選にするなどせざるを得ない状況にもなる。したがって、現時点では、今の運用の中で、できるだけ皆さん同士が譲り合って仲良く利用していただきたいという思いである。

【大野市卓球協会】地域移行の補助金や委託事業のおかげで、本当に潤沢に補助をいただいております。活動はしやすくなっている。しかし、その補助金で備品を購入できないという点が、非常に残念でならない。例えばボールやボールネットなどは購入できるが、せっかく100万円近くの補助金がある中で、卓球台を1台でも購入しておきたいという思いがある。

【事務局（教育総務課）】来年度の補助の内容が国から示されており、補助対象経費には備品購入費も含まれている。詳しい内容はまた来年度になってからお知らせしたい。

【大野市サッカー協会】先ほどの体育館利用の件だが、休日の部活動は地域移行したという前提で考えると、基本的に土日は学校の体育館が空いているのだろうか。実際、中学校の体育館である開成と陽明は、土日は部活動をしないと聞いているが、その点はいかがなのだろうか。

【事務局（スポーツ推進課）】時間帯によっては空いている。

【大野市サッカー協会】先日からスポーツ推進課の方へ提案をさせていただいていることだが、開成も陽明も体育館が空いているのであれば、例えば午前8時半から11時半までのように、日中の時間帯を3つのスパンに区切り、その3つの枠をうまく割り当てて利用できないかと考えている。夜間については社会体育の利用があるかもしれないが、日中の時間帯であれば体育館は広く、非常に使い勝手が良いはずである。開成と陽明の2つが利用できれば、土曜日だけでも6団体が全面を使って活動できることになるだろう。もちろん、調整は大変かもしれないが、せめて土日だけでもそのように時間を区切り、割り当てを工夫できればと以前から思っていた。また、福井市が先に同様の取り組みを始めるという新聞記事も見た。こうした仕組みづくりは難しいのだろうか。体育館を使う団体が非常に多いわけではないので、うまく当てはめることはできないのかと考えている。

【委員長】中学校の体育館は小学生も使うか。

【事務局（スポーツ推進課）】小学生もスポーツ少年団も使う。

【委員長】そうなると取り合いになる部分も出てくるとは思うが、せっかくの提案なので、上手に調整して中学校の体育館を使用できるようなシステムを作っていただけると良いのではないかなと思う。

【大野市サッカー協会】スポーツ少年団が今中学校の体育館を使用しているということだが、私の記憶では、何年か前までは土日の学校体育館はほとんど部活動が利用しており、スポーツ少年団が使用するという事はまずなかった。しかし、地域移行によって土日に部活動が学校で行われなくなり、体育館が空くようになったため、スポーツ少年団も利用するようになった、という理解でよいのだろうか。回答は後日でも良い。部活動が優先された方がよいという話もあったが、このあたりで解決できるのではないかなと思っているので検討してほしい。

（参考）

会議中ではスポーツ少年団が使用していると回答したが、正しくはみんなスポクラブが利用しており、会議終了後にその旨回答した。

【委員長】ほかの地域クラブへのご質問、ご意見あれば賜りたい。

―― 〈質問・意見なし〉 ――

【委員長】協議事項（2）「令和8年度からの休日・放課後活動地域展開について」事務局から説明をお願いします。

―― 〈事務局説明〉 ――

【委員長】質問はないか。

【大野ジュニアBC】スクールバスの利用について。バドミントンでは男子と女子のチームがあり、女子だけ、男子だけが練習試合に行く場合があるが、大きいバスを使うと交通費が高くなるという思いで、なるべく男子と女子が同じ会場に行く大会や練習試合に限って利用している。もう少し小さいマイクロバスやバンなどの車両を複数回使えるような配慮はできないだろうか。

【事務局（教育総務課）】まず、大野市が保有するスクールバスの種類は、ほとんどがマイクロバスである。基本的にマイクロバスを出すことがほとんどである。今おっしゃったようなケースについては、個別に相談させていただきたい。

【大野市文化協会】中学生が参加できる大人の活動についてであるが、これはどこまでの範囲を対象とするのか伺いたい。例えば、お花や茶道、書道、バレエなどの活動もある。私が把握していない活動も多く存在するはずである。それらすべてを教育委員会へ報告し、認定の可否を判断されるのか、そのあたりを知りたい。財政的支援は無いということだが、それでも報告することに何かメリットがあるのか。その点についても教えていただきたい。

【事務局（教育総務課）】まず、この中学生が参加できる大人の活動についてであるが、コーディネーターが調査しリストを作成済である。こちらから働きかけて調査を行う場合は、文化協会に所属している団体、スポーツ協会に所属している団体へ照会をかけ、その結果として現在のリストが出来上がっている。ただし、それ以外の団体についても、認定制度が始まる際には、ホームページなどさまざまな方法で「認定希望の団体は申請してください」という案内を行う予定である。文化協会に加盟していない団体であっても、『うちにはこういう活動があり、中学生も参加している』『中学生が参加することができる、受け入れが可能である』といった団体から申請があれば、審査の上、要件を満たしていれば認定を行う方針である。

財政的な支援がない中で、「報告するメリットはあるのか」という点については、現時点で明確に言えるものはない。しかし、少なくとも中学生に対して、『希望すればこういう場所で活動できますよ』という情報を、広くすべての中学生に紹介することができる。

【大野市軟式野球連盟】確認だが、学校の部活動はなくなるという理解でよろしいか。また、認定地域クラブに認定されたクラブだけが、公共施設の使用料の免除やスクールバス利用の対象になると線引きがされたように見えるが、それも間違いはないか。

【事務局（教育総務課）】部活動はなくなる。また、ここにお集まりのチームについては、ぜひ認定地域クラブの申請をしていただきたい。

【大野市軟式野球連盟】軟式野球の場合は、今勝山クラブに行っている。この勝山クラブを大野市が認定して、スクールバスや公共施設の使用料の免除をするということか。

【事務局（教育総務課）】これは広域連携のクラブという扱いになるため、まずは市町間の教育委員会で協議する必要がある。そのため、この件は非常に個別の案件になってくると思う。実際の状況について詳しくお聞かせいただき、個別に相談を進めさせていただきたい。

【Axis大野ジュニアバスケットボールクラブ】運営費の支援について質問する。今年度までの支援は、国の委託事業としての支援と県の補助金という、いわば二本立ての形で実施されていたと理解している。来年度のこの支援額は国の委託事業に当たる部分のみを指すものなのか、それとも国の委託事業と県の補助金を合わせた金額になるのかという点である。

【事務局（教育総務課）】来年度からは実証事業の委託料というものはなく、国と県と市のお金が入った補助金1本となる。

【大野ジュニアBC】運営費のほうの参加費、参加人数と費用の割り付けであるが、今の団体の状況を見ても、人数についてはどうしても変動がある。割り振られている人数区分を見ると、相当の人数がいないと成り立たないように感じている。皆さんは実際どれくらいの人数で活動されているのか。また、この人数区分をどのような理由で設定したのか、その点を伺いたい。

【事務局（教育総務課）】表の人数の割り振りは国の方から示されたもので、詳細は把握していない。

【委員長】クラブの人数について質問があったが、どうか。

（それぞれ人数ごとに各チームが挙手）

【委員長】5人以下のチームはいるか。

【大野市軟式野球連盟】夏以降はなるかもしれない。

【ピクルス】うちも可能性はある。5人以下だと補助金が出ない可能性があるのか。

【事務局】過疎地、山間地は5人以下も対象になると聞いている。また来年度に向けて、確認させていただく。

【委員長】他に質問はないようなので、続いて協議事項の（3）、「休日部活動の地域移行についてのアンケート結果」について、事務局から説明をお願いします。

――〈事務局説明〉――

【委員長】質問はないか。ないようなので、その他について、事務局から説明をお願いします。

――〈事務局説明〉――

【委員長】質問はあるか。ないようなので、資料4について、事務局から説明をお願いします。

――〈事務局説明〉――

【委員長】質問はあるか。ないようなので、本日の協議事項を終了する。

【閉会】

【副委員長】まず初めに、日頃より中学生のためにさまざまな時間にご尽力いただいていること、そしてご協力をいただいていることに、校長会を代表して御礼申し上げます。私は学校で部活動に取り組む生徒たちの様子をよく見ている。現在の活動は昔ほど厳しいものではないが、それでも子どもたちはそれぞれの種目において、本当に楽しそうに、一生懸命取り組んでいる。

また、今日のアンケート結果を拝見し、地域クラブで中学生が非常に充実した活動をしていることを改めて知り、大変ありがたく感じている。中学生は今、自分たちがやりたいことを、自分に合った強度で取り組んでいることが大きいのではないかと感じている。

県内の状況を見ると、今年の夏の大会以降、多くの市町で休日の地域移行がさらに進む計画になっている。大野市は、最初のご挨拶にもあったとおり、県内を先んじて地域移行が進んでいるが、今後は各市町でも同じようにクラブチームが増え、地域移行が広がっていくことになるだろう。その中で、市町を越えたネットワークもできてくるのではないかと感じている。

こうした中で、子どもたちがさらに自分のやりたいこと、したいことに取り組める環境が整うのは、本当にありがたいことだと思っている。今後とも、学校とともに子どもたちの成長に力添えをいただきたい。